

## 納期短縮が台湾進出の最大のメリット

台南サイエンスパークにはここ数年LCD関連企業の集積が進んでおり、LCD関連企業のクラスターが形成されつつある。LCDの製造に使用されるフォトマスクの製造販売を行う(株)エスケーエレクトロニクスも、2002年に台南サイエンスパーク内に頂正科技(股)を設立し、台湾のパネルメーカーやカラーフィルタメーカーにフォトマスクを供給している。今回はエスケーエレクトロニクスの常務取締役と頂正科技の董事長を兼任される石田昌徳氏に、当社の台湾における事業活動の現状などについてお話をうかがった。

頂正科技(股)  
石田昌徳 董事長



### 昨年末に第2ラインの稼働開始

#### 貴社の概要についてお聞かせください

石田：頂正科技は日本のエスケーエレクトロニクスと台湾の現地企業3社と共同出資により、2002年に設立しました。エスケーエレクトロニクスの出資比率は60%弱です。液晶表示装置(LCD)の製造に使用されるフォトマスクの製造販売を行っています。現在、従業員数は約40名、日本からの駐在員は7名です。

#### フォトマスクとはどのような製品ですか

石田：フォトマスクとは、2～3マイクロンの微細なパターンがガラス板上に形成されたものです。TFT-LCDや液晶部材であるカラーフィルタは、フォトマスクを原版として、フォトリソグラフィ(光を利用して微細パターンを基板に転写する技術)によって製造されています。簡単に例えるなら、フォトマスクは写真フィルムのネガのような役割を果たしています。

### どのような経緯で台湾進出をされましたか

石田：台湾液晶パネル産業の発展に伴い、ここ数年、台湾におけるフォトマスクの需要は急速に拡大しています。そこで顧客である台湾のパネルメーカーやカラーフィルタメーカーとの技術交流を深め、顧客ニーズに対応した製品開発を進めるため、台湾への進出を決めました。

#### 昨年末に第2ラインの稼働を開始しました

石田：進出当初はパターンを基板に転写する描画工程を1ライン稼働させていましたが、今般、新たに第2ラインを導入しました。更にこれまでは基板に薬剤を塗布するコーティング工程は日本で行ってきましたが、台湾にコーティングラインも設置し、コーティングから描画まで台湾で一貫して行う体制を整えました。これにより、これまでよりも更に品質の高い製品をお客様に提供できると考えています。

### 納期短縮が台湾進出の最大のメリット

#### 貴社にとって台湾進出の最大のメリットは何ですか

石田：当社にとって台湾進出の最大のメリットは納

日本企業から見た台湾

期の短縮を実現できたことです。これまで日本で製造し台湾に納入する場合には、通関手続などにより、注文を受けてから納入するまで、通常の国内企業様への納入に比べて、3～4日程多くかかっておりました。この業界ではスピードが非常に重視されますので、納期を従来より3～4日短縮することには、大きな意味があります。

デリバリーの他、コスト面のメリットはありますか

石田：サイエンスパークの賃料は日本などと比べ非常に安いですが、フォトマスクは設備産業であり、設備の償却負担が重い半面、土地賃料や人件費などはあまりコストには影響してきません。この意味で、コスト面でのメリットはさほどありませんが、法人税5年免税等の優遇措置の適用を受けており、これは非常に助かります。

台湾パネルメーカー各社の業績はとても好調です

石田：パネルメーカーがフル稼働時にフォトマスクの需要が伸びるかという点、必ずしもそうでもありません。と言うのも、フォトマスクの需要としては、パネルメーカーが新商品開発時に使用するテストマスク(新版)が大半ですが、量産品(リピート版)もあります。フル稼働時にはパネルメーカーは新商品の開発にも手が回らなくなり、テストマスクの需要が落ちるからです。しかし全体的にみると、今年から来年にかけて、液晶パネルメーカーのテレビ向け大型液晶パネル製造ラインの稼働がはじまり、これに伴い、高精細大型フォトマスクの需要は拡大傾向にあるといえます。

需要増に対応するための投資計画を発表しました

石田：日本本社では今年3月に総額約81億円の設備投資計画を発表しました。現在の主力工場である久御山(京都府)の敷地内に新工場を設立すると

もに、台湾の頂正科技にもこの中の約16億円を投じて描画機の第三ラインを増設します。新ラインは今年年内の稼働を予定しています。

台南に日系LCD関連企業のクラスターが形成

台南にLCD関連企業が集積しつつあります

石田：私達が台南サイエンスパークに進出した当時は、日系企業の進出もさほど多くありませんでしたが、最近は相次いで日本のLCD関連企業がサイエンスパークにも進出しています。当社も台南の日本人会などには積極的に参加し、他の台南の日本企業と情報交換をしています。最近、台南では必要なものなどは日系のデパートなどでだいたい手に入るようになりましたので、日本人にとって生活がしやすい環境になりました。

台湾における経営で困難な点は

石田：台湾では一般的に人材の流動性が高いですが、当社も適正な人材の安定確保という課題があります。そこで情報流出リスクなどを管理するための仕組み作りを行うとともに、従業員への利益還元を含む会社の人事制度の見直しを通じて、従業員に魅力のある会社となることが重要であると考えています。

台南サイエンスパークに入居する主な日系企業

会社名	取扱製品
エスケーエレクトロニクス	フォトマスク
住友化学	偏光フィルム
ウェスト電気	CCFL
スタンレー電気	CCFL
リンテック	光学フィルム
アルバック	半導体・FPD製造装置